

働けど働けどあす見えぬ

子ども貧困

シングルマザー 田

仕事をこなし、午前2時すぎに眠りにつく。

長女を連れ27歳で離婚。

資格を取って働けば安定すると思いい、介護の職場で長くパートなどで働いた。月収は手取りで約18万円。別の男性との間に長男、次男

が生まれたが、結婚はしなかった。子どもが小さいうちは夜勤をやめ、手取りは一時11万円に減った。

午前5時45分、携帯電話のアラームが鳴り出す。聞こえてはいるが、体は鉛のように重い。10分後、3度目のアラームで、北海道に住む介護職の女性(43)は体を布団から引きはがす。

高1の長女(16)は部活の朝練へ。女性は長男(6)と次男(2)に食パン1枚を半分ずつ食べさせ、保育園に送る。7時半には職場の介護つき住宅に着く。

職場では一日中立ったり座ったり。病院や役所にも足を運ぶ。職場の食堂で午後2時に食べる200円の定食が一番まともな食事。朝は食はず、夜も自分はご飯と砂糖だけだ。

保育園が閉まる直前に滑り込む。帰って夕食を食べさせ、午後10時までに寝かす。洗濯と翌日の夕食の準備をし、持ち帰った

保育園が閉まる直前に滑り込む。帰って夕食を食べさせ、午後10時までに寝かす。洗濯と翌日の夕食の準備をし、持ち帰った

今年10月、正社員になったが、月収はパートの時とほぼ変わらない。

長女バスケット断念

そんな暮らしの中で、諦めさせたこともある。

長女は小1から校区のミニバスケットボールチームに所属。全国大会に行くほどの強豪で、小5でレギュラーになった。月謝の4千

円に加え、遠征費が年15万円以上かかった。他の親のように遠征に同行できない代わりに、夜練習の送迎を任された。1年は踏ん張ったが、小5の3月、長女に伝えた。

「うちは、これ以上は無理なんだよね。6年生から転校しない?」

「懸命に働く背中を見せて自分で養いたい。生活保護か、馬車馬のように働く

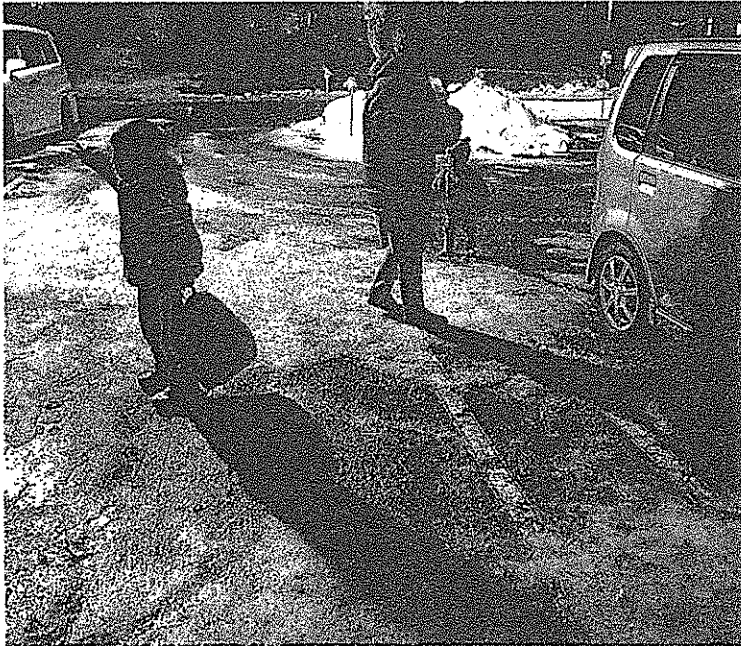
か。他の道はないのではありませんか」と話す。

野草摘み食事に

中部地方に住む女性(29)はダブルワークで、長男(9)、長女(7)、次男(4)を育てる。

タンポポを摘んで食べた。長男が最近、夕飯を食べながら言った。「高校は昼働いて夜の学校に行く。お金稼いで半分はママにあげる」。涙がにじんだ。

自分も母子家庭で育ち、朝から晩まで工場で働き詰めの母を見てきた。子どもが寂しくないよう、自分も少しでも一緒にいられる仕事を選んできた。でもこのままでは何も残してやれない。年明けからもう一つ、訪問営業の仕事始める。「体はしんどいけど、稼げるうちに稼ぐ」(山内深紗子、足立耕作)



保育園が閉まる直前に駆け込む北海道の女性。「おなかすいた。早くおうち帰ろう」と息子たちは車へ急いだ

経済協力開発機構(OECD)の周燕飛研究員によると、CD) 諸国の中で、日本のひとり親世帯の貧困率は高い。2010年調査では、50・8%で最も高かった。米国は45・0%、仏は25・3%、英国は16・9%。

日本のシングルマザーの8割は働いているが、収入が低いのは非正規就労が多いためだ。厚生労働省の全国母子世帯等調査(11年)によると、働くシングルマザーの5割はパート・アルバイトで、その平均年間就労収入は125万円。

労働政策研究・研修機構

非正規就労多く 低収入に

の周燕飛研究員によると、シングルマザーの多くは子育てのため非正規就労を選ばざるをえず、正社員になっても子育て期に離職しているため中途採用で低賃金に抑えられているという。

養育費を払う親が少なく、児童扶養手当などの福祉給付が十分でないため、「働いて貧困生活を続ける」か「財産を手放して生活保護を受ける」かのジレンマに陥ると指摘。「働くひとり親世帯に対する新たな所得援助制度を国は設けるべきだ」と話す。

子どもと貧困について、ご意見をお寄せください。メール (asahi_forum@asahi.com) か、〒104・8011 (所在地不要) 朝日新聞オピニオン編集部「子どもと貧困」係へ。